

この7年間は本当に地味な活動でしたが、多くの方のご支援で、私たちの運動に賛同して下さる方が、徐々に増えています。これから3年間は、組織を充実させる期間としたいと思います。

遅ればせながら、1月29日の7周年記念パーティーにご出席いただいた皆様、お忙しい中をありがとうございました。また、ご都合でお越しいただけず、祝電やお手紙、お電話をくださった方、ここで改めてお礼を申し上げます。今回は、当日のご報告の意味も含めて、WSF、Japanの今後の方向について、紙面をお借りして私の考えを述べてみたいと思います。

日本の女性スポーツについて語る上で、どうしても必要なのはより多くの女性スポーツ団体の現状をまず、把握することでしょう。そこで、昨年末に行ったのがアンケート調査です。日本体育協会傘下の各競技団体の女子部や、独自の組織を作って活動している団体に送り、計14団体（個人も含む）から回答がありました。その回答は前号で簡単に紹介し、また会員にはWSF Japanの7年の歩みを添えた「女性スポーツ団体に関するアンケート調査報告書」をお配りしました。

通ずる悩みを見出し、初対面ながら親しみを覚えたり、また、先輩として運営の秘訣を聞いてみたいと思ったりしました」と、ある出席者は話してくれました。アンケート調査に関して、私がここでもう一つ、皆様を知っていたきたいのは、男性が長いこと取り仕切ってきた団体の中にある女性たちは、自分たちの意見をなかなかいえない、という現実があることです。

実際、アンケートを寄せてくださったある女性は、ご自身が所属している団体の上層部の人（男性）から「そんなもの（アンケート回答）などやる必要がない」といわれたそうです。組織を運営している人から見れば「オレたちのいう通りにしていればいいんだ」ということなのでしょうが、随分、古めかしい考えの男性が、日本のスポーツ界にはまだ大勢いることを忘れてはならないと思います。

パーティーに各団体の代表として出席いただいたのは8人、それに個人の資格で4人がそれぞれの分野の活動状況などを話されました。（詳細は2、3ページ）ひとり5分ていどのスピーチをお願いしたのですが、各団体にとっ

ては減多にないPRの場（？）ということもあって、予定の持ち時間はすぐにお切りしてしまいます。そして、最後に、私が「日本の女性スポーツの歴史」というテーマで、スライドを使って15分ほど話をさせていただきました。2時間のワキは30分延び、また、スピーチが延々と続いたため、約50人の出席者が懇談する時間が、極端に短くなってしまいました。

主催者としては段落りが悪いとしかられそうな進行ぶりでしたが、結果として私は大変、満足しています。というのも、入れ替わり立ち替わりヒナ壇に立つ各団体の女性たち、つまりテニスの宮城黎子さん、ゴルフの梶井映理さん、TOLの小野清子さんらのスピーチを、出席者が最後まで熱心に聞いてくださったからです。通常、パーティーという後半はガラけてきて、スピーチをしても誰も耳を貸さずに出席者同士のおしゃべりで場内が騒然となるものです。しかし、最後の大貫映子さん（ドーバー海峽速泳横断者）の時まで、本当に静かでした。

今回のパーティーをただのお祭りにしないために、私はこの日の出席者に

「女性スポーツ連絡協議会の設立」を提案し、全員の賛成をいただきました。これを一つの足がかりとして、WSF Japanの活動をさらに広げたいと思っています。具体的には、4年前に原案としてまとめた規約をもう一度練り直し、より多くの女性スポーツ団体が参加できるようにします。

また、日体協会傘下の団体の女性の地位について、十分に認識していただくために、私は同協会の鈴木祐一専務理事や馬飼野正治・国民スポーツ委員会委員長にお会いしました。これまで市民スポーツを長く推進してきた日体協に、女性スポーツを考える部門を作っていたらいいかと思ったのですが、馬飼野委員長のご意見は「プロ、アマを含めて幅広く考えていくなら、活動は体協の中に組み込んで考えない方が、自由にできるだろう」というご意見でした。「その分、体協としても全面的に協力する」という嬉しいお言葉に、意を強くしています。遅々たる歩みではありますが、WSF Japanをも少し大きく育てたいと思います。今後とも皆様のご支援をお願いいたします。